

## 小野田委員からのコメント

- ◆ 「4 県立美術館の現状と課題」の論理階梯が若干交錯しているように思いますので、以下のように整理した方がわかり易いかなと思いました。

### 【原案】

- (1) コレクション
- (2) 既存施設
- (3) 利用者利便性
- (4) 野外空間
- (5) 教育交流事業
- (6) 多様な鑑賞者
- (7) ギャラリー
- (8) 文化観光拠点
- (9) 連携拠点
- (10) デジタル・アーカイブ化

↓

### 【修正案】

#### ソフト面の評価

- (1) コレクション
- (2) アウトリーチ
- (3) 人的資源
- (4) デジタル化への対応

#### ハード面の評価

- (5) 立地
- (6) 建築
- (7) 外部空間
- (8) 各部機能（ギャラリー、収蔵関係）

#### その他

- (9) 連携関係
- (10) 文化観光拠点としての活用

- ◆ 「5 ビジョン（魅力向上の方向性）」と「6 ビジョンの実現に向けた今後の進め方」について、その通りなのだと思いますし、滋賀ゆかりの作家や戦後アメリカ現代美術もコレクションとして重要なのでこのような書きぶりになっているのだと思いますが、「アール・ブリュット」をもう少し前面に押し出さなくても良いのですか？

社会の寛容性が著しく減じている現在において、生の可能性と多様性を直観的に伝えることの出来るこれに出会える滋賀県立美術館は本当にかげがえの無い場所ではないかと。色んな目的に使ってもらえるというのはなんかちょっと押し出しが弱いような気もしました。

また「柱1～柱4を推進するための基礎的な項目」というのは、「実現のためのアクションプラン」みたいに分けた方が良いのでは？そうすると、6と重なってくるのでまとめて再整理というかんじもあるかと思いました。

#### 【原案】

##### 5 ビジョン（魅力向上の方向性）

- 柱1 子どもも大人も来たくなる美術館に
- 柱2 ユニークなコレクションにいつでも親しんでもらえる
- 柱3 公園ごと楽しめる
- 柱4 いろんな目的に使ってもらえる
- 柱1～柱4を推進するための基礎的な項目

##### 6 ビジョンの実現に向けた今後の進め方

- (1) 整備基本計画の策定
- (2) 連携や参画の深化
- (3) 喫緊の課題等への対応



#### 【修正案】

##### 5 美術館が大切にする柱

- 柱1 子どもも大人も来たくなる居心地のいい美術館
- 柱2 アートを通して多様性を深く考えることの出来る美術館
- 柱3 公園や周辺施設を巻き込んだ環境としての美術館
- 柱4 滋賀の歴史や文化の柱として頼りがいのある美術館

##### 6 実現のためのアクションプラン

- (1) 美術館の覚悟の表明
- (2) すぐにでもやるべきこと（喫緊の課題等への対応）
- (3) 長期的な視点で頑張る目標（連携や参画の深化へ向けて）
- (4) それらを実現するための足腰づくりのために